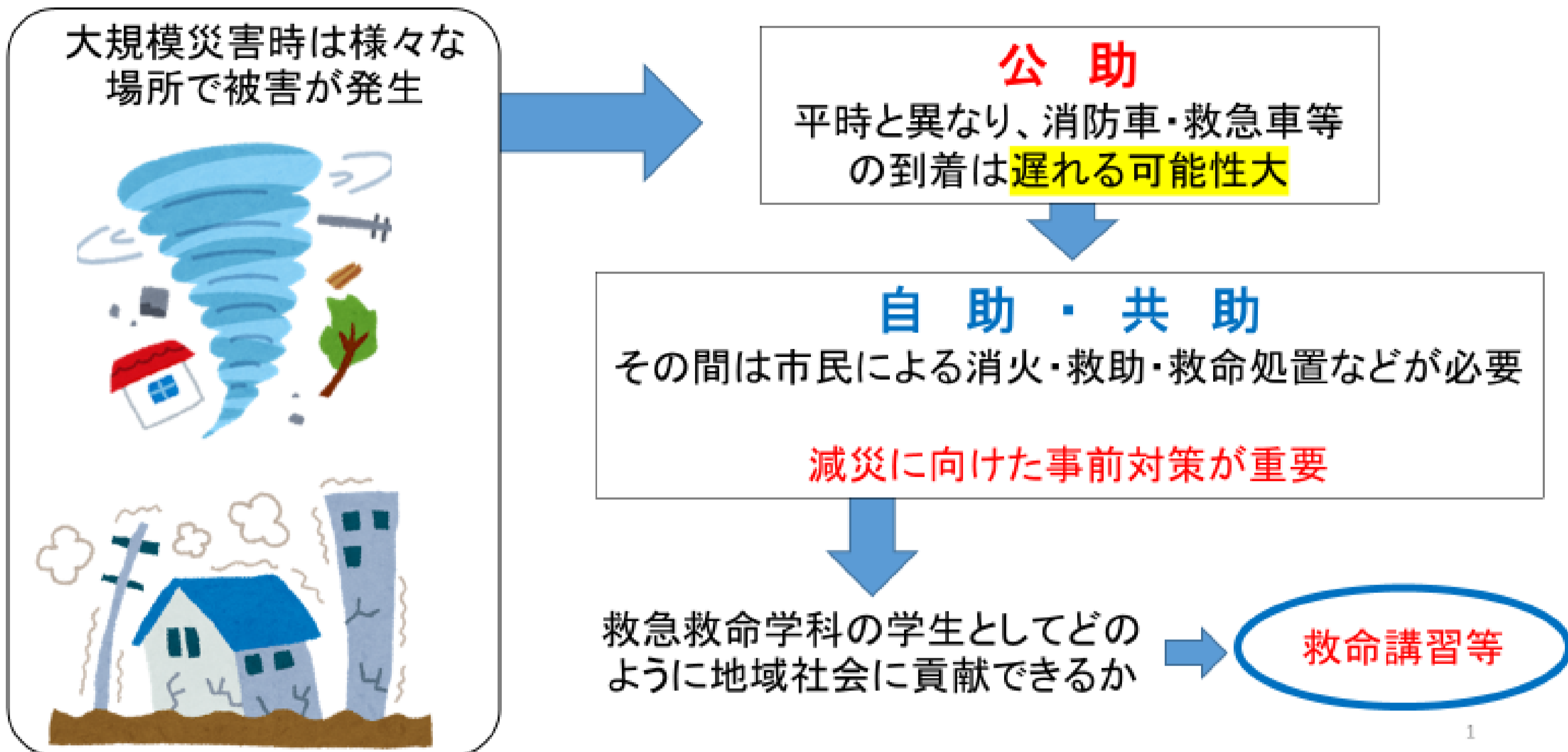


# 地域での多様な活動

## ～救急救命学科学生の活動事例～

杏林大学保健学部救急救命学科：宮野 収、滝沢 文彦、佐藤 宏

自然災害が頻発する日本における「災害に備えるまちづくり」



## 2022年度の活動

コロナ禍ではあったものの、感染防止に配慮して3年ぶりにBLS(一次救命処置)指導等を実施

- 1 市民に対するBLS指導(みたか防災マルシェ)
- 2 「第31回三鷹市民駅伝大会」で救護ボランティア活動
- 3 中学生に対するBLS指導

### 1 市民に対するBLS指導(みたか防災マルシェ)

- ・ 実施日: 令和4年9月10日(土)
- ・ 参加者: 救急救命学科ボランティア学生5名、教員2名
- ・ 総来場者: 1,100名、うち約100名が応急救護体験
- ・ 内容: 学生による心肺蘇生法及びAED取扱いの指導
- ・ 市民から「親切な対応で、質問に分かり易く応えてくれた。」といった声が聞かれた。



### 2 「三鷹市民駅伝大会」の救護ボランティア

- ・ 実施日: 令和4年11月27日(日)
- ・ 参加者: 救急救命学科ボランティア学生8名、教員4名
- ・ 走者等: 125チーム625名、総観客数は約1万3千人
- ・ 内容: 市内駅伝コース4カ所に設置された救護所で保健師と連携して負傷者対応
- ・ 転倒等によるケガ人が数名発生したが、いずれも軽症であり、無事終了



### 3 羽村市内の中学生に対するBLS指導

- ・ 実施日: 令和4年6月17日(金)
- ・ 参加者: 救急救命学科学生48名、教員10名
- ・ 対象者: 3中学校、中学2年生延べ470名
- ・ 内容: 教員による講義、学生による心肺蘇生法の展示・指導
- ・ アンケート結果: 体験した中学生の93%が「人が倒れたとき、協力して応急手当ができる(「まあまあできる」含む。)」と回答



### 4 三鷹市内の中学生に対するBLS指導

- ・ 実施日: 令和5年2月2・3・6・7・13・14・15・16日(延べ8日間)
- ・ 参加者: 救急救命学科学生38名、教員9名
- ・ 対象: 3中学校、中学1年生延べ658名
- ・ 内容: 三鷹消防署及び東京防災救急協会と連携し、普通救命講習の指導
- ・ 各中学校教員からも本学学生の懇切丁寧な指導に対し、好評を得ている



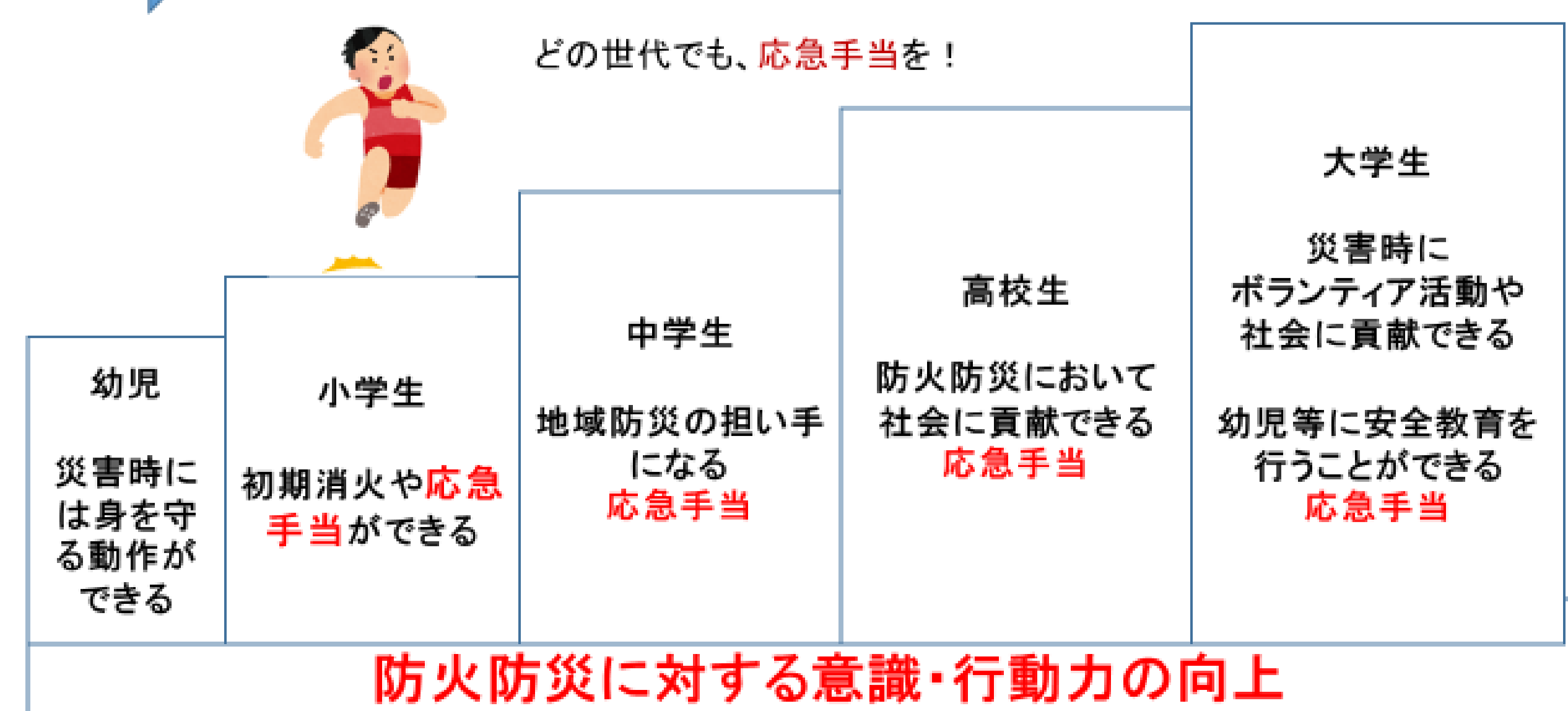
#### 【体験した中学生の声・感想(一部抜粋)】

- ・ みんなで協力することの大切さ、中学生でも人の命を救うことができることを知った。
- ・ 胸骨圧迫を救急車が到着するまで続けることが大事だとわかった。
- ・ 指導がとてもわかりやすかった。
- ・ コロナ禍ということも考えた対応を学ぶことができた。
- ・ 大学生の方々が分かりやすく教えてくれたのでよく理解できた。
- ・ テニスボールでの練習は初めてであったが、姿勢や圧迫の要領を意識してできて良かった。
- ・ 運動部に入っているので、友達が倒れてしまったときには今日勉強したことを実施して、友達を助けたい。
- ・ 自分たちの行動が命を救うのだということを学んだ。
- ・ スライドの動画が分かりやすく実際に起きた時、活動できそう。

#### 今後の活動展開

「災害に備えるまちづくり」の為に各地域の防災意識・防災力の向上が必要不可欠

防災意識・防災力の向上には**幼少期からの防災教育**が大切！！



市民一人ひとりの**防災力の向上**